

検 印

第2学年3組 体育科学習指導案

日 時 平成25年11月26日（火）第5校時
 場 所 体育館
 児童数 28名
 指導者 教諭 柴田 朋子

1 単元名 ドッジボール（ボール投げゲーム）

2 運動の特性

（1）一般的特性

- ・ボールを投げたり、避けたり、捕ったりしながら、集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせるこ
とが楽しい運動である。
- ・ゲームを楽しくする工夫や楽しいゲームをつくり上げ、勝敗を競うことが楽しい運動である。
- ・手でボールを操作することを必要とする運動である。
- ・相手のボールを避けたり、相手にボールを当てたりすると楽しい運動である。

（2）児童から見た特性

- ボールを思いきり投げ、相手に当たると楽しい運動である。
- 相手の投げたボールをよく見て、捕ったり避けたりすると楽しい運動である。
- 集団で活動するため、仲間から励まされたり、ほめられたりすると楽しさをより味わえる運動であ
る。
- 仲間と協力し合ってゲームや練習に取り組めると楽しい運動である。
- チームで作戦や練習を工夫し、ゲームに勝つと楽しい運動である。
- △技能において、個人差が大きく表れ、特定の子が捕ったり、投げたりしているとつまらない運動で
ある。
- △ボールに対して怖いと感じていると、つまらない運動である。
- △失敗したときに友だちにせめられると、つまらない運動である。
- △自分にパスが回らずにボールにさわれないと、つまらない運動である。

3 児童の実態

（1）一般的な児童の実態

本学級の児童は、明るく元気な児童が多く、休み時間になるとほとんどの児童が外に出て遊んで
いる。外遊びの内容としては、おにごっこや大縄、鉄棒や遊具を使った遊びなどが中心だが、ボー
ルを使った遊びをする子も増えてきており、男女仲良く遊んでいる姿も見られる。また、朝のマラ
ソンに積極的に取り組んだり、鉄棒の技を高めるために休み時間にも練習したりするなど、自分で
課題をもって運動に取り組むことができる児童もいる。一方では、教室内で読書をしたり、絵を描
いたりすることを好み、教師が支援しないと運動に対する意欲が低くなる児童も数名いる。

1年生でドッジボールを経験しているが、ボールを投げたり、捕ったりすることを苦手としている児童もあり、技能に個人差がある。全員が楽しく進んで体育の授業に取り組めるように、場の設定や教材・教具の工夫が必要である。

【体力測定結果（平成25年5月7日実施）】

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	9.62	15.08	29.38	36.62	36.00	10.56	117.62	11.23
県平均	10.99	15.00	27.86	31.98	29.48	10.67	128.39	11.52
比較	▲	○	○	○	○	○	▲	▲

女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	8.87	14.27	30.67	33.40	24.20	11.32	107.00	7.00
県平均	10.43	14.37	31.05	30.42	23.41	10.95	121.04	7.67
比較	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲

○…県平均（H24）を上回った ▲…下回った

本学級の男子は、昨年度の県平均をやや上回る項目が多いが、握力や立ち幅跳び、ボール投げは下回っている。女子においては、ほとんどの項目で下回っている。ボール投げでは、円の中から投げるという制約があるものの、助動作がない、手の振りが小さいなど、投げる動作の小ささが気になった。また、経験不足からか、下投げで転がそうしたり、ボールを地面に叩きつけたりする児童もいた。

(2) 本教材にかかわる児童の実態

体育・ボール投げに関する意識調査（平成25年10月4日実施）

対象28人

1 体育の学習は好きですか。			
①好き	②どちらかというとき	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
25人	2人	1人	0人

2 どんな体育の学習が好きですか。（3つまで選択可）			
① 体ほぐしの運動	② 固定施設・鉄棒遊び	③ 器械を使つての運動遊び	④ 走・跳の運動遊び
13人	13人	14人	10人
⑤ 水遊び	⑥ ボールゲーム	⑦ 表現リズム遊び	
10人	13人	11人	

3 ドッジボールは好きですか。			
① 好き	② どちらかというとき	③ どちらかというとき嫌い	④ 嫌い
25人	1人	1人	1人

<理由>

- | | |
|--------------|-------------------------|
| ・楽しいから、面白いから | ・ボールを投げて、当たったら嬉しいから |
| ・怖いけど、面白いから | ・体を動かしながら投げたり、よけたりできるから |
| ・強いから | ・キャッチができるから |
| ・力がつくから | ▲当たると痛いから |
| ・よけるのが得意だから | ▲1年生の時ボールが当たって唇を切ったから |

4 ボール投げでは、どんなことが出来るようになりたいですか。

- | | |
|----------------|-------------------|
| ・遠くまで投げたい（18人） | ・上手に投げたい（2人） |
| ・12m以上投げたい（1人） | ・思いっきり投げたい（2人） |
| ・7m以上投げたい（1人） | ・片手で投げたい（2人） |
| ・まっすぐ投げたい（2人） | ・スピードをつけて投げたい（1人） |

5 外で、どんな遊びをしますか。

- | | | | |
|--------|---------|----------|-------|
| ・鉄棒 | ・のぼり棒 | ・ジャングルジム | ・雲梯 |
| ・おにごっこ | ・ドロケイ | ・かげふみ | ・かけっこ |
| ・サッカー | ・ドッジボール | ・キックベース | ・缶けり |
| ・タイヤ | ・大縄 | ・なわとび | |

体育の学習が『好き』『どちらかというと好き』と答えた児童は27名で、体育に対する関心は高い。特に、鉄棒や跳び箱やマット運動を得意とする児童が半数近くいる。理由としては、これまでに沢山の経験を意図的に行ってきたからである。また、普段から、いろいろな遊びをして体を動かすことは好きであるが、ボールを投げるという経験はそれほど多くないことも分かった。

児童は、鬼ごっこなどで走る運動を生活の中で自然に行っているが、投げる運動はあまり行っていないため、意図的に学習していかないと身に付けることは難しい。児童の願う「遠くまで投げたい」を実現化するためには、しっかりと投動作の基本を学習させることが重要であると考え。投動作を身に付けるためには、まず、投げ方を知ることから始めたい。そのために、授業の前半で投げ方を中心に、遊びの要素を取り入れ、楽しみながら学習できるようにし、後半でゲームを中心に行う。そうすることで、個人の技能の向上だけでなく、学習してきた投げ方のポイントを振り返り、児童同士の教え合いも深まり、よりゲームの楽しさを味わうことができると考える。

4 教師の指導観

学校教育目標	思いやりのある子（徳）	よく考える子（知）	たくましい子（体）
研究主題	楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成 ー投力を重視したボール運動の展開ー		

【仮説1】

児童の発達段階と個々の児童の実態を的確に把握し、一人一人を伸ばす指導法を工夫すれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説 1 への手だて】

○児童の実態把握

体力測定の結果、アンケート、ボール投げの実態調査をもとに、児童一人一人の意識、技能、体力を把握する。

○一人一人を伸ばすための指導法の工夫

ドッジボールの特性である「投げる」「避ける」「捕る」を習得するために、単元の前半を外野が動きやすく当てやすいように、また、それにもない内野の動きも高まるように「たまご型ドッジボール」とする。なかは、普通のドッジボールに近づけるために、「しかくドッジボール」とする。このローテーション式のドッジボールそのものを、一人一人の練習の場として考え、どの児童にも投げる、捕るなどの技能の向上を図る。

一人一人の「投げる」力の向上のために、よいフォームで・遠くへ・正確に・強く投げられるような「スキルアップタイム」を設定する。

【仮説 2】

児童の願いを生かし、児童が仲間とコミュニケーションを取りながら、計画的・継続的に運動を実践する場である環境整備を進めていけば、進んで運動や遊びに取り組む児童が育つであろう。

【仮説 2 への手だて】

○気持ちを温める

児童には、上手になりたいという願いがある。これまでの授業でも、友だちのいいところを見つけて発表してきた。練習やゲームの中でお互いに認め合い、励まし合える言葉がけを積極的に行かせたい。スキルアップタイムでは、「ナイス!」「ドンマイ」「上手」「いいね」などの声をかけ合って行うようにする。ダンボールアタックの場面では、「いいぞ」「右をねらって」など、みんなで力を合わせて楽しむようにする。ゲームでは、友だちとの肯定的な関わりを大切にするため、挨拶・握手・円陣・励まし合い（応援）をセット化して重要な学習内容として位置づけ、身に付けさせる。

○場の工夫

ドッジボールコートの大さは、女子のボール投げの平均が 7 m 位だが、とどく楽しさを味わわせるために 6 m とし、この 6 m を一つの指標として考える。しかし、単元が進む中で、児童の様子を見ながら、コートの大さも変化することを考えておく。

ボールは、ソフトドッジボールにすることで、当たった時の痛さを和らげるようにする。

1 チームの人数を 7 人とし、そのうちの 3 人を外野とすることで、一人一人がボールに触る機会をできる限り多くする。

○スキルアップタイムの充実

パス&キャッチでは、児童が片手で投げられるようにハンドボールの空気圧の弱いものを使用する。よいフォームでボールを遠くへ投げられる力を養うとともに、投げられたボールをいろいろな捕り方で捕ることができるようにする。

的当てでは、的をねらって正確に強く投げられるようにする。ほとんどの児童は握力が弱いので、強くボールを投げるために、児童の手に合った握れる大きさと硬さの雑巾ボールを使用する。

ダンボールアタックでは、ダンボールをめがけて、繰り返しボールを投げ続ける。ダンボールを敵の陣地に運ぶために、楽しく、夢中に、思い切って投げるようにする。

【仮説 3】

児童自らが健康・安全について理解し、体力の伸びを実感できる活動の工夫をすれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説 3 への手だて】

○基本的な動きを身に付ける

準備運動では一つ一つの動きを正確にできることで、各部位の可動性を高めることを理解させ、安全に学習に取り組むことができるようにしたい。特に、本時で使う部位は入念に行い、怪我を防止できるようにしたい。

○学習後の体力を測定する

ボール運動を行っている時は、自分の体力の伸びをなかなか実感することは難しい。単元の学習後体力の測定を行い、学習前の結果と比較し、少しの伸びでもほめるようにしたい。

5 単元の目標

- ・友達と協力し合い、励まし合って、仲良く運動することができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・ドッジボールの動き方を知るとともに、攻め方を選んだり見つけたりすることができるようにする。

【思考・判断】

- ・相手の動きをよく見て、ボールを当てる、かわす、パスを回すなどして、楽しくドッジボールができるようにする。【技能】

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
・ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片づけをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	・ドッジボールの行い方を知るとともに、得点の方法などの規則を選んでいる。 ・ドッジボールの動き方を知るとともに、攻め方を選んだり見つけたりしている。	・的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームにおいて、簡単なボールの操作やボールを持たないときの動きができる。

7 単元の計画

(1) ゲーム、ボール運動の取り上げ方 (数字は時間数)

運動/学年	第1学年	第2学年	運動/学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
ボールゲーム	2 6	2 6	ネット型	1 0			
鬼遊び	3	6	ゴール型	8	2 6	1 4	1 4
			ベースボール型	8		8	7

(2) 学習過程 (6時間扱い) 本時 4 / 6

時間	1	2	3	④	5	6
0 分	集合・整列・挨拶・健康観察・準備運動・補強運動					
	オリエンテーション ・学習の内容、進め方を理解する ・準備、約束事の確認 ・スキルアップタイムの行い方を知る ・ルール、コート ・チーム編成 ・めあての設定	スキルアップタイム 1	スキルアップタイム 2 (距離を伸ばす)			
		ねらい 1 ルールを決めて、「たまご型ドッジボール」をすることができる。 ・「たまご型ドッジボール」の行い方を知る。 ・「たまご型ドッジボール」を行う。	ねらい 2 なげ方、とり方、よけ方などを工夫しながら、「しかくドッジボール」をすることができる。 ・「しかくドッジボール」の行い方を知る。 ・「しかくドッジボール」を行う。		ねらい 3 ドッジボール大会をしよう。 ・これまでの学習を生かして、ドッジボールを行う。	
4 5 分	学習のまとめ・振り返り・後片付け・整理運動・挨拶					

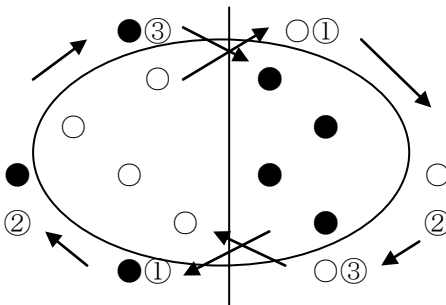
(3) 評価計画

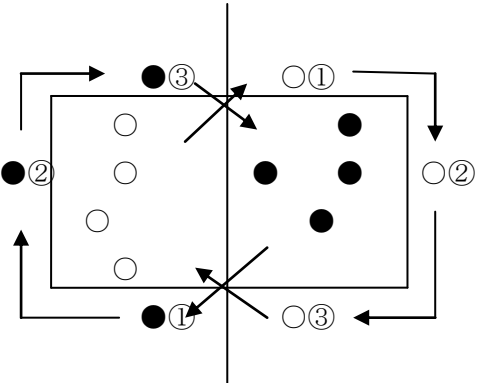
時	重点観点	学習活動における具体的評価規準	評価の場面	評価の方法
1	関心・意欲・態度	・ドッジボールに関心をもち、学習の内容と進め方を理解し、見通しをもって意欲的に取り組もうとしている。	オリエンテーション	観察 問いかけ
2	思考・判断	・ねらった的にボールを投げるには、どんな投げ方がよいかを考えている。	スキルアップタイム 1	観察 学習カード
3	運動の技能	・ボールをよく見てとったり、かわしたりすることができる。 ・相手をよく見て投げるすることができる。	ねらい 1 のゲーム	観察 学習カード

④ 本 時	運動の技能	・「しかくドッジボール」の行い方を知り、ボールをよく見てとったり、かわしたりすることができる。 ・相手をよく見て投げるすることができる。	ねらい２のゲーム	観察 学習カード
5	思考・判断	・ゲームの攻め方を選んだり、見つけたりしている。	ねらい２のゲーム	観察 学習カード
6	関心・意欲・態度 運動の技能	・チームで声をかけ合い、励まし合いながら意欲的にゲームに取り組もうとしている。 ・ねらったところに強くボールを投げるることができる。	ドッジボール大会	観察 学習カード

(4) 学習と指導・評価

段階	学習のねらい・活動	指導 (○) 評価 (◆)	評価方法
は じ め 45 分 × 1	1 学習のねらいや進め方を知り、単元の見通しを持つ。 ・ゲームに必要な基本技能を知る。 ・ゲームの方法とルールを知る。 ・スキルアップタイムの行い方を知る。 ・学習のきまりを確認する。 2 みんなが楽しいゲームをするために、約束を考える。 ・ルールを守り、みんなで仲よく行う。 ・声をかけ合い、励まし合って行う。 3 チーム編成をする。(4チーム) ・男女混合7人 ・チームキャプテンを決める。 ・チーム名を決める。 ・ビブスの色、コートを使い方等を決める 4 試しのゲームをする。 ・スキルアップタイムを行う。 ・実際にゲームを行って、ゲームに慣れる。 ・教師は児童の実態を把握する。	○ドッジボールの特性を理解させる。 ○学習のねらいと進め方を説明し、単元の見通しを持たせる。 ○仲よく協力してやるとみんなが楽しめることを理解させる。 ○新体力テストのボール投げの結果や性格等を考慮してチームを決める。 (第1時) ◆ドッジボールに関心をもち、学習の内容と進め方を理解し、見通しをもって意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】	・観察 ・問いかけ

な か ① 45 分 × 2	ねらい1 ルールをきめて、「たまご型ドッジボール」をすることができる。 1 準備運動・ストレッチ・補強運動 2 めあての確認 3 スキルアップタイム 【基礎技能習得学習】 ・パス&キャッチ →投げて捕る ・的あて →ねらって投げる ・ダンボールアタック →強くボールを投げて、捕る 4 たまご型ドッジボール  5 学習のまとめ 6 後片付け、整理運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○児童がわかりやすいように、提示する。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○協力して取り組み、動きが高められているチームを称賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○挨拶をしっかりと行わせる。 ○ルールを守って取り組ませる。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師が関わる。 ○自分のめあての達成状況を確認させる。 ○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。 ○ゆっくりと行い、しっかりと筋肉をほぐす。 (第2時) ◆ねらった的にボールを投げるには、どんな投げ方がよいかを考えている。 【思考・判断】	・観察 ・学習カード
---	--	--	-----------------------

		(第3時) ◆ボールをよく見てとったり、交わしたりすることができる。 【運動の技能】 ◆相手をよく見て投げるができる。 【運動の技能】	
な か ② 45 分 × 2	ねらい2 なげ方、とり方、よけ方などを工夫しながら、「しかくドッジボール」をすることができる。 1 準備運動・ストレッチ・補強運動 2 めあての確認 3 スキルアップタイム ・パス&キャッチ ・的あて ・ダンボールアタック 4 しかくドッジボール  5 学習のまとめ	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○児童がわかりやすいように、提示する。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○協力して取り組み、動きが高められているチームを称賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○挨拶をしっかりに行わせる。 ○ルールを守って取り組ませる。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師が関わる。 ○自分のめあての達成状況を確認させる。 ○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。	

	6 後片付け、整理運動	○ゆっくりと行い、しっかりと筋肉をほぐす。 (第4時) ◆しかくドッジボールの行い方を知り、ボールをよく見てとったり、かわしたりすることができる。 【運動の技能】 ◆相手をよく見て投げるができる。 【運動の技能】 (第5時) ◆ゲームの攻め方を選んだり、見つけたりしている。 【思考・判断】	・観察 ・学習カード
まとめ 45分×1	ねらい3 ドッジボール大会を楽しむことができる。 1 準備運動・ストレッチ・補強運動 2 ルールの確認 3 ドッジボール大会 4 学習のまとめ 5 後片付け、整理運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○ルールや、態度等のマナーを確認する。 ○挨拶をしっかりと行わせる。 ○チーム内で進んで声掛けをさせる。 ○作戦を意識し、協力してゲームに取り組ませる。 ○友だちの良かったところや、自分のめあての達成状況等を確認させる。 (第6時) ◆チームで声をかけ合い、励まし合いながら、意欲的にゲームに取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ◆ねらったところに強くボールを投げるができる。 【運動の技能】	・観察 ・学習カード ・問いかけ

8 本時の学習と指導（4／6時）

(1)ねらい

- ・素早く動いて、ボールを投げたり、よけたり、捕ったりすることができる。【運動の技能】

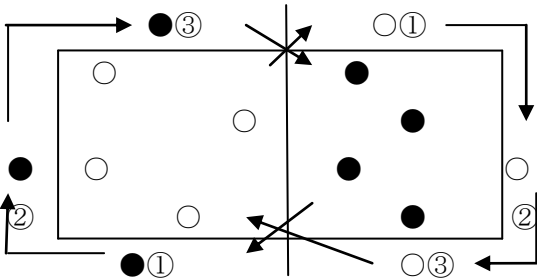
(2)準備

児童 学習カード、筆記用具、ビブス

教師 指導用太鼓、笛、ストップウォッチ、得点版、的当て板、段ボール、雑巾ボール、ハンドボール、ソフトドッジボール、かご、運動の掲示資料

(3)展開

	学習のねらい・活動	指導上の留意点（○）、評価（◆） 努力を要する児童への手立て（△）
導 入 6分	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 本時のねらいや学習の進め方を確認する。 3 準備運動・補強運動・慣れの運動をする。	○速やかに集合、整列し、元気にあいさつをする。 ○一人一人の顔色から健康状態を把握する。 ○本時のめあてを確認するとともに、前時にがんばった児童を認め、本時への意欲をもたせる。 ○一つ一つの運動を正確に行わせる。
展 開 35分	4 スキルアップタイム ① パス&キャッチ ② 的あて ③ ダンボールアタック 5 本時のねらいを確認する。 ボールをよく見てすばやくうごき、力を合わせてがんばろう！ 6 しかくドッジボールをする。	○しっかりとボールを投げる、捕ることに集中させる。 ○できるだけ強いボールを投げられるよう、体重移動することを意識させる。 ○場の動きができたなら、「できた。」と言い、3回できたら赤帽子にする。全員が赤帽子になったら「みんなできた。」とコールする。 ○思い切って、力強く投げるようにする。 △配慮が必要な児童には、個別に声かけをする。 ○めあてを提示する。 ○ゲーム前後の挨拶をしっかりと行わせる。 ○ルールを守り、運動にふさわしい態度で取り組ませる。 ○積極的に声をかけ合い、励まし合いながら

	〈場の設定〉  〈ルール〉 ・当てたら1点得点。点数の多いチームが勝ち。 ・得点の仕方は、当てた児童が得点を入れに行く。 ・内野は当てられたら、外野①に出る。外野は②③と移動して、内野に戻る。 〈ゲーム〉 13分間 ・前半 6分 ・作戦タイム 1分 ・後半 6分	取り組ませる。 △判定がもつれた場合やトラブルになりそうになった場合は教師が積極的に関わる。 △ボール運動が苦手な児童の伸びを認め、声をかける。 ◆ルールを守って楽しくしかくドッジボールができる。【態度】
整理 4分	7 片付け 8 今日のまとめ ゲームの結果を伝え、めあてを達成した児童を賞賛する。 9 整理運動 10 次時の予告を聞き、終わりの挨拶をする。	○協力し合い、安全に手際よく片付けさせる。 ○本時の学習を振り返り、まとめをさせる。 ○めあてに対する本時の成果を学習カードに記録させる。 ○ゆっくり行い、筋肉をほぐす。 ○児童の努力を認め、次時への意欲づけを行う。 ○全員の健康状態を把握し、気持ちのよい挨拶で学習を締めくくるようにする。

9 資料

- ・学習カード